

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2373600283
法人名	社会福祉法人サンライフ
事業所名	グループホーム ジョイフル布袋
訪問調査日	平成20年3月6日
評価確定日	平成20年4月14日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2373600283
法人名	社会福祉法人サンライフ
事業所名	グループホーム ジョイフル布袋
所在地	江南市北山町東212番地 (電話) 0587-56-7451

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7 A		
訪問調査日	平成20年3月6日	評価確定日	平成20年4月14日

【情報提供票より】(平成20年2月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年4月15日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	15,510 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年2月14日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	3名	要介護 2	4名
要介護 3	1名	要介護 4	1名
要介護 5	0名	要支援 2	0名
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 97 歳
協力医療機関名	愛知厚生農業共同組合連合会 愛北病院		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は田畑が広がり、玄関前の農道は五条川の土手に続き、春には桜が見事である。散歩によく出かけ、時には近くの喫茶店でモーニングを楽しんでいる。南向きの居間は明るく、広いベランダで日光浴をしたり、花を楽しんだり、ゆったりと生活している。調理や買物、掃除や洗濯など日常生活を継続することが大切と考え一緒にしながら、時には主体的にやらせてもらうよう支援している。花見や1泊旅行など家族とも楽しむ生活が支援され、毎月の行事やイベントでホームに閉じこもらない楽しい生活が支援されている。また、町内会に加入しホーム便りを回覧してもらったり、区祭りでは飾り馬がホームにも回ってくるなど地域との交流もある。法人所有の広場を地域に開放し、近所の子どもの安全な遊び場となっている。小学校の地域探検や中学校の職業体験、専門学校の実習を受け入れるなど積極的に地域と良好な関係を築いている。今後はさらに地域とホームが双方向的な関係に発展するよう取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果に基づきホーム便りにグループホームの役割を記載して町内会の回覧板で回してもらって啓発広報に努めている。家族にもホーム便りを定期的を送付し、訪問時に日常の様子を伝えている。北山区長には手渡しして情報を提供するなど改善した。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、全職員にアンケート形式で記入してもらい、管理者が取りまとめた。今回の自己評価は全部記述形式で大変だった。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2カ月毎に開催され、ホームの取り組み状況や目的などを報告し意見交換している。参加者は入居者家族、南山、北山各区長、地域包括支援センター、江南市長寿介護保険課、民生委員など地域の方の参加も得て討議が進められている。前回の外部評価結果を報告し、今後はホーム便りを運営推進委員メンバーにも届け積極的に働きかけ、連携してサービス向上に繋げようと考えている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>2カ月毎にホーム便りで、行事や暮らし振りを知らせている。また、家族の訪問時には報告や説明をしている。健康状態については必要な方には個々に連絡をとっている。家族会はないが、行事を通じ話し合い、家族の来訪時には近況報告だけでなく、運営に関する意見や要望など聞くようにしたり、アンケートをとって意見を反映させる努力をしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入してホーム便りを回覧板で回してもらったり、11月の区祭りでは飾り馬がホームまで回ってきたり、散歩の折には挨拶したり地域との良好な交流が生まれている。また、法人所有の広場を開放し、サッカーや野球に興じる近所の子どもの安全な遊び場となっている。地域の小学校の地域探検や中学校の職業体験、専門学校の実習も積極的に受け入れている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念と共有</p>					
1	1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「普通の人があたりまえの普通の生活を」「いつも笑顔で感謝の言葉をより多く」「家族、地域と連携して共に歩もう」を運営理念として玄関に掲示している。調理や買物、洗濯、散歩など馴染みの日常の生活習慣を継続することに重点をおき、普通に生活するよう支援している。</p>		
2	2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員は個々に理念を認識して、入居者が調理や買物、洗濯、散歩など馴染みの日常の生活習慣を継続することに重点をおき主体性を持って生活するよう支援している。しかし、職員間で理念に対する認識に差があり、共有する場が必要と考えている。</p>		<p>ケアの方向性を示す理念を、管理者と職員の全員で話し合い共有し認識することで、よりケアの視点やポイントが明確になる。一丸となり皆が同じ方向を向いて実践できるよう、今後の取り組みに期待したい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>					
3	5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会に加入してホーム便りを回覧板で回してもらったり、11月の区祭りでは飾り馬がホームまで回ってきたり、散歩の折には挨拶しあったり地域との良好な交流が生まれている。また、施設のグラウンドを開放し、サッカーや野球に興じる近所の子どもの安全な遊び場となっている。地域の小学校の地域探検や中学校の職業体験、専門学校の実習も積極的に受け入れている。</p>		
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価結果に基づきホーム便りにグループホームの役割を記載して町内会の回覧版で回してもらって啓発広報に努めている。家族にもホーム便りを定期的を送付し、訪問時にも日常の様子を伝え、区長には手渡ししたりして情報を提供するなど改善した。今回の自己評価は、全職員にアンケート形式で記入してもらい、管理者が取りまとめた。</p>		<p>評価の意義の理解と改善への認識においては、現場では温度差があるため、評価のねらいや活用方法を理解できるよう討議をされることを期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2カ月毎に開催され、ホームの取り組み状況や目的などを報告し意見を交換している。参加者は入居者家族、南山、北山各区長、地域包括支援センター、江南市長寿介護保険課、民生委員など地域の参加も得て討議が進められている。前回の外部評価結果も報告し、今後はホーム便りを運営推進委員メンバーにも届けて積極的に働きかけ、連携してサービス向上に繋げようと考えている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>生活保護者の受け入れ相談など、運営推進委員である地域包括支援センターとは情報交換をしているが、市との関わりは特に行なっていない。今後、市にもホーム便りを届けて情報を交換したり、子ども110番の受け入れや介護教室開催など、さらに積極的に連携していきたいと考えている。</p>		<p>今後はホーム便りを手渡ししている北山区長だけでなく地域包括支援センターや江南市長寿介護保険課、民生委員にも届けて積極的に働きかけ、市の担当者や町内と連携してサービス向上に繋げようと考えていることから、今後に期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>請求書および小遣い帳は毎月送付している。2カ月毎にホーム便りで、行事や暮らし振りを知らせている。家族の訪問時にも入居者の暮らし振りの報告や説明をしている。健康状態については必要な方には個々に連絡をとっている。理念については入居時に説明している。</p>		<p>2カ月毎に通信を家族に送付し、入居者の暮らし振りや行事予定を家族に知らせ伝えているが、入居者個々の健康状態や職員の異動などの報告についても家族から要望があがっていることから、報告の方法など検討されることを期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会はないが、年に1、2回は家族と一緒に行事も企画され参加もある。行事を通じ話し合い、家族の来訪時には近況報告だけでなく、運営に関する意見や要望など聞くようにしたり、ホーム独自でアンケートをとって、意見を反映させる努力をしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動や交代はあるが、ホームの生活は確立されており、異動の際にも入居者は不安や動揺などダメージは少ないと考えており、普段どおりの生活を送るように努めている。来訪した家族には口頭で説明している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員を対象とし愛知県グループホーム連絡協議会の研修への参加や法人内の研修は定期的に行われており、研修や資格取得への援助を積極的に支援している。資格取得に関しては法人内で自主的な勉強会もある。研修の内容は報告書を提出し、月1回のグループホーム会議の中で報告して共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム連絡協議会に加入しており、研修には年4～5回参加している。法人内の他グループホーム6カ所とは月に1回部会で意見交換や交流があり、サービスの質の向上に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は実施していないが、入居時、本人や家族から話しを聞き取り、本人の身体状況や生活歴、家族状況、得意な事などを把握し、入居後も話をすることで、他の入居者やホームでの生活に馴染みやすいように支援し、不都合や不安のない雰囲気づくりに努めている。		この1年、新規入居はないが、今後いきなりのサービス利用でなく、他の入居者やホームでの生活に馴染みやすいように工夫し、不都合や不安のない雰囲気づくりを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の年長者として、その生き様やその人らしさを尊重し、入居者に寄り添って過ごしながら学ぶことも多い。献立を一緒に考え、買物や食事と一緒に、洗濯や居室の掃除も一緒にすることで得意な料理の作り方や洗濯の干し方を教えてもらったり、最近では雛人形の名前も教えてもらった。毎日の散歩や近くの喫茶店へお茶に行くなど共に過ごし支えあう関係がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時のアセスメントで身体状況や生活歴、家族状況のほか、本人や家族の意向を把握し、介護計画に反映させている。また、普段の日常生活や個人記録の中で常に本人の思いや意向を把握し、毎日の申し送りで伝え、1カ月に1回の会議では入居者一人ひとりの状況を話し合い本人の背景や思いを検討、把握し共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時のアセスメントで身体状況や生活歴、家族状況、本人や家族の意向を把握し、介護計画に反映させている。入居後、毎日の生活から様子を把握し、毎朝申し送りをし、1カ月に1回のグループホーム会議では入居者一人ひとりの状況を全職員が検討、把握し、共有して介護計画を作成している。また、1人の職員が2人の入居者の状況を担当して把握し、観察しながら申し送り、会議などで提議、検討し介護計画に活かしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日の生活から様子を把握し、毎朝申し送りをして検討し共有している。また、管理者、計画作成担当者、全職員と一緒に毎月のグループホーム会議で一人ひとりの状況を話し合い、検討している。実情と見合わない計画になっている場合は変更している。変化がなくても半年毎に介護計画の見直しに取り組んでいる。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>グループホームとして、重度化の判断基準を自立歩行ができなくなった時、常時医療が必要になった時としている。その場合には同法人の施設と連携をとり、退居後の支援ができるよう家族に話しをしている。併設のデイサービスフロアに喫茶コーナーがあり語らいやふれあいの場になっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームの協力医療機関があり、2週間に1度往診を受けている。かかりつけ医への受診は、基本的に家族にお願いしており、受診結果や服薬などの情報はその都度受けて、ファイルして入居者の健康管理に努めている。緊急時や様態急変時には家族や協力医療機関とも連携を取りながら支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者の終末期の指針については、法人としての指針に沿っており、重度化した場合や、終末期の基本的対応として、家族、職員、医療機関などと連携を取りながら同じ法人経営の他施設への入所を勧め支援している。今後、重度化、終末期の知識、情報など、ケアについて互いにズレが生じないように話し合い確認し、共有化を図りたいと考えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>居室ドアに小窓があり、小さなカーテンを目隠しにするなどの配慮がされている。個人情報、鍵つきロッカーに保管し、不要な書類はシュレッターをかけて破棄している。入居者の失禁などの時、職員はさりげない声かけや対応に心がけ、入居者の誇りやプライバシーを損なうことのないよう取り組んでいる。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者との日常会話の中から、その人の思いとして「つぶやき」を記録して、申し送りをし、月1回のミーティングで話し合い、全員で共有して支援し介護に取り組んでいる。起床時間などは無理強いせず時間をおいて声をかけるなど配慮している。また、晩酌をする人はいないが、お花見や1泊旅行会等の行事の会食時には職員が用意して楽しめるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は朝食、昼食は職員が作り、夕食は入居者が作り好みの献立となっている。入居者は食材の買出し、調理全般と片付けを職員と一緒にいき、リハビリにもなっている。食器は自分の箸、茶碗、湯のみを使用しており、職員も同席して同じ物を食べており、入居者の状況を把握する場となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の生活歴から、入浴時間は16時から18時を目安に実施している。入浴拒否者の対応は、時間をずらして声をかけるなどしている。また、お風呂好きの方が多く、血圧などを目安に体調に配慮して実施している。浴槽は埋め込み式になっており、入居者の入りやすさに配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は日常生活の中で、入居者が行ないたいこと、できることなど、毎日の申し送りやミーティング、カンファレンスなどで把握しており、手づくりカレンダーの差し替え、ゴミ出し、新聞とり、洗濯物干し、たたみなど自発的に、毎日行うことで自室にこもらないよう取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年4回家族が参加してお花見や外出などの行事を行い、このうち1回は1泊旅行に出かけている。また、毎月神社や動物園など入居者の体調に合わせて出かけている。毎日の買い物も一緒に出かけ、散歩時に近隣の住民と話をする機会となり、認知症の理解と啓発にもつながっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることは間接的な拘束と考えており、基本的に鍵はかけておらず、ホーム内の移動は可能である。過去のエスケープ時に本人、家族に多大な心配と不安をかけた事から、夜間と昼中入居者の散歩や外出支援などで職員が1名のみ残っている時は施錠している。ベランダから庭先への出入りは自由で、入居者は近隣の人達と会話を楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の指導のもとに1回、ホーム独自で年9回、火災や地震、夜間を想定して、入居者も参加して実施している。避難場所は法人所有の広場としている。ホームが田園地帯にあることから近隣住民の協力は得られていない。防災設備は消火器、火災報知器は設置されている。備蓄品は水、非常食など2.3日分を目安に準備し、職員全員が把握している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	理念である「当たり前で、普通の生活」に基づき、食事量の制限はなく、入居者の体調に合わせた量にしている。また、入居者の体調や要望によって、きざみ食など特別食の対応も行っている。水分摂取量は食事、おやつを含め1日1を目安に取り組んでいる。なお体調の悪い時には、おやつ時に補助食品を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、家庭を思わせる様に下駄箱、飾り棚が配置され手作りのロープ人形が飾られている。廊下には行事の写真が掲示され、入居者の楽しそうな様子がうかがえる。広い庭は春には色とりどりの花が楽しめる工夫がされている。フロアには広い台所があり、入居者と共同作業ができるよう配慮され、畳コーナーにはこたつが置かれ、家庭的な雰囲気をつくり出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、エアコンと洗面台が常設され、使い慣れたたんすや鏡台、小物入れ、TV、ベットなどが配置され壁には家族の写真等が飾られて家庭的な雰囲気づくりがされている。入居者が分かりやすいように絵画と大きな表札が入口にかけられている。居室の掃除は職員の声かけに入居者が行い、できることには手を出さないケアが実施されている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。